

平成22年度第1回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成22年5月20日(木) 午後2時～4時30分
- 2 会 場 中央図書館会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：12人 傍聴者：なし
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務係長、館長補佐兼調査係長
花小金井図書館長、サービス係長、資料係長、仲町図書館長
計7人
- 4 配付資料 資料は省略させていただきます。
- 5 委員任命式(委員任命書の交付)
- 6 委員の紹介
- 7 議事
 - (1) 報告事項
 - ① 職員の人事異動について(資料No.3)
 - ・4月の人事異動は、新規採用44人を含め308人。図書館は17人の異動。
 - ② 図書館運営状況について
 - ・小平市立図書館行事等の報告と今後の予定(資料No.4)
(これまでの報告)
 - 3月20日 汚損本・破損本の展示(～4月1日) 小川西町図書館
 - 3月21日 小平図書館友の会 古本市(～4月22日) 中央公民館
 - 3月24日 小平図書館友の会ティーンズ利用者懇談会 中央図書館
 - 3月27日 子ども科学講演会 喜平図書館
 - 4月1日 こだいら子ども読書月間(～5月6日) 市内全図書館
布の絵本の展示(～5月7日) 中央図書館
 - 4月21日 学校図書館協力員(中学校)研修(～4月22日) 中央図書館
 - 4月27日 小平市子ども文庫協議会定期総会 中央図書館
 - 5月17日 学校図書館司書教諭等連絡協議会(第1回)
 - 5月18日 学校図書館協力員(小学校)研修(～4月20日) 中央図書館
 - 5月19日 読み聞かせ実践講座 第1回 中央図書館

(今後の予定)

5月27日 読み聞かせ実践講座 第2回 中央図書館 予定

6月3日 読み聞かせ実践講座 第3回 中央図書館 予定

6月12日 スライド講座「リンドグレーンの作品の地を訪ねて」池田正孝氏（子ども文庫連絡協議会・図書館主催事業）中央図書館 予定

・平成22年度月別貸出状況について（資料No.5）

4月、1か月分だけの数字だが、貸出資料数は、全館で132,319点。前年同期に比べ、2,294点の増加となっている。新規の登録者は少し減っているが、貸出者数は増えている。

・平成22年度広域利用市別貸出状況について（資料No.6）

東村山市との広域利用が多くなっている。

③ 平成21年度図書館事業報告について（資料No.7）

・貸出資料数は、約163万点で、昨年度比で2.2%伸びている。

・所蔵資料数は、汚破損本の除籍を積極的にすすめていることから若干減って、120万冊弱となっている。

④ 「第2次 小平市子ども読書活動推進計画」について（刊行物配布）

⑤ 小学校学校図書館協力員の配置について

・学校図書館協力員は、すでに中学校に配置しているが、学校図書館活性化に有効であると検証されたことから、今年度は、小学校についても配置することになった。

⑥ 平成22年度蔵書点検に伴う臨時休館について（資料No.8）

・6月に3つのグループに分けて実施する。

・貸出等は、市内のどこかの図書館でできる。

ブックポストも利用できるため、貸出の延長はせず、通常どおり2週間の期間とする。

⑦ 平成22年度司書講習への職員派遣について

・亜細亜大学へ3名の派遣を予定している。

⑧ 平成22年度ブックリサイクル事業について（資料No.9）

・10月23日、1月22日、2月19日の3回を予定している。

・今年は、すべて図書館の中で行う。

⑨ 平成22年度子どもの読書活動優秀実践図書館・団体（個人）文部科学大臣賞の受賞について

・4月23日、子ども読書活動推進フォーラムにおいて、「拡大写本の会ひまわり」が文部科学大臣賞を受賞した。心身に障害のある子どもに布の絵本や遊具を、また弱視の子どもに拡大写本を作成して、完成品を図書館に寄贈するなど、図書館の障害者サービスに貢献したと認められたことによる。

< 報告に対する質疑・応答 >

委員：情報ボランティアとは、どのようなボランティアか。

事務局：小平の地域に関する写真資料を取り込んでデータベース作りをしている。昨年は、玉川上水の写真資料を取込んだCDを寄贈してもらった。

委員：一般ボランティアの仕事は。

事務局：主な仕事は図書の修理。団体貸出の返却作業、第3木曜日の書架整理等を行っている。

委員：「広域利用市別貸出」の「他市」の中に、国分寺市はどのくらい入っているのか。

事務局：他市というのは、他の市に住んでいて小平市に在勤・在学している方々のことで、国分寺市だけの統計はとっていない。

委員：とれるのなら、統計をとってほしい。

委員：「小平市子ども読書活動推進計画」の配布先は。

事務局：図書館関係では、26市と23区の図書館、国会図書館、都立図書館に送った。市内では、小中学校の校長、副校長、司書教諭、子ども文庫等に配っている。また、司書教諭等研究協議会、小中学校の研修会等、なるべく機会をとらえて内容を説明している。

委員：図書館でも、もっと宣伝ができると良い。一般の方の購入はあったのか。

事務局：購入は、少しあった。「小平市子ども読書活動推進計画」は、図書館全館に貸出用として所蔵しており、図書館のホームページでも案内している。

委員：今年度、学校図書館相談員が替わったということだが、司書資格はあるのか。

事務局：4月に、司書教諭の資格を持った新しい相談員が2名入った。

委員：21年度のブックリサイクルの実績37,000冊は、例年に比べて多かったのか。

事務局：21年度は前年度に比べ、雑誌を含めると約30%の増となっている。

21年度は、それまで2回実施していた地区館のリサイクルを3回に増やしたところ、多くの来場者があった。22年度も21年度同様3回実施する。

委員：館外でブックリサイクルを実施している図書館があったが、館内でブックリサイクルを行っていただいた方が、1人10冊というルールが守られるのではないのか。

委員：小学校に学校図書館協力員を配置したことはたいへん良いことだが、地域教育サポートネット事業に学校図書館ボランティアの連絡会があるため、横の連携をとることはできないのか。

事務局：6月28日の学校図書館ボランティア講座に、中央図書館の職員が講師をすることになっている。学校図書館協力員と学校図書館ボランティアとの役割分担が課題になることは、十分承知しており、これから協力の仕方を探っていけたらと思う。

委員：7月27日と8月3日の小学生調べ方教室は新しい試みと思うが、どのような内容になるのか。

事務局：詳細は検討中だが、小学生の中学年から高学年を対象に、グループを作りテーマを出して、資料の使い方等調べ学習の基本を学ぶということを考えている。参加者は市報とホ

ームページで募集する。

委員：司書講習へ派遣する職員は、図書館で決めるのか、それとも職員の希望か。

事務局：せっかく資格をとるので、できるだけ長い期間、図書館に勤めることができる職員という観点も持ちながら、職員の希望を聞いて派遣する。

委員：司書講習は意欲を持っていて、それにふさわしい人が受けるのが一番良い。司書講習に職員を出す側でも考えて出した方が良い。

委員：学校の図書は十分ではないと思うが、蔵書は年間どのくらいずつ増やされているのか。また地域の図書館との結び付きをどのように深めようとしているのか。

委員（小学校）：蔵書数としてははっきりした数はわからないが、東京都も小平市も読書活動には力を入れているので、大きな割合の予算が付けられている。また各学校には独自のボランティアがかなりいて、読み聞かせや本の修理を行っている。ボランティアと協力員との関係については、学校側も仲立ちをして進めなければいけないと考えている。

委員（中学校）：特に予算については不足しているとは感じはしないが、古い本があるので、廃棄、更新が必要になってくる。

地域の図書館との交流では、昨年は図書館に、職業調べ関係の本をそろえてほしいと依頼したところ、図書館内に学校のコーナーを作ってくれたと聞いている。これも協力員が中心となって進めている。教員から希望が出されて、地域図書館等と話をしてくれたようだ。また、学校で足りない資料関係の手配も協力員がやってくれている。教員は忙しいので、専門的に図書の扱いをしてくれる協力員が学校に配置されていることはありがたい。

委員：「じゃあ、読もう。」のスローガンの掲示は、図書館全体で共通してやらないのか。

事務局：国民読書年ということでいろいろなポスターがきており、全館に送ってある。どこに貼るかは、それぞれの館の事情による。

委員：利用者アンケートの結果が、数字で図書館だよりに載っているが、今、一番情報を多く見ることができるのはWebなので、グラフにしてWebに載せてほしい。また、5月の連休については、“何日に何時まで開いています”とか“どこが休みです”とか、一目瞭然になっていたものを図書館の入口に貼ってほしい。

事務局：利用者にわかりやすい掲示をこれからも工夫していきたい。

委員：ブックリサイクルで資料を廃棄をするときは、購入と同じだけの力を注いでそれを選ばないといけない。購入と廃棄は、イコールのものと思って処理してもらいたい。

事務局：除籍をする場合は、各館から除籍リストを出してもらい、中央図書館の司書がチェックしている。作業はきちんとやっており、今後も気をつけたい。

委員：古本市は、どこで主催しているのか。

事務局：古本市は、「図書館友の会」で実施しており、売上げで図書館に備品を寄付していただいている。昨年はブックトラックを寄贈していただいた。

委員：事業報告の中で、レファレンスサービスの参考調査の合計を見ると、津田図書館が中央図書館より多いが、たくさんの方が来るのか。

事務局：こまめに記録を取っていることが反映される。1件1件、質問を受けたら記録票に付けるということの積み重ねがこのようになっている。